

Senior Seminar 紹介



授業テーマ

小山 薫 1/2

- I. 異界伝承にみるイギリス—異教文化とキリスト教
- II. 異教文化とキリスト教—ゼミ論文作成

授業の概要

I: 「若者の教会ばなれ」がとりざたされる今日にあっても、キリスト教が比類ない影響力を英米文化に与え続けていることは否定のしようもない。そこにルーツをもつさまざまな概念や思想、風習はいまもイギリス社会のすみずみにまで息づき、それぞれの地域の風土や歴史、国民性に味つけられて、この国の多様性の一端を示している。そしてその鍵となるのは、ケルトを始めとする土着の異教文化だといえよう。教会や美術館で、また街角のパブサインにさえ、異教文化はキリスト教と絶妙に共存、融合し、イギリス文化の大きな特徴となっていることを実感する。本講座では、イギリスの異界伝承を手がかりに、神、天使、聖人（聖女）に代表されるキリスト教世界の〈光の領域〉を、悪魔、魔女、人魚、妖精、幽霊の出没する〈闇の領域〉とともに分析する。文学や映画、美術、音楽、フェミニズムとの関連を確認しつつ、異界伝承の多面的魅力について知識と理解を深めたい。

II: Senior Seminar Iで修得した知識（イギリスの歴史、異教文化、キリスト教文化、フェミニズムなど）を土台として、各受講生が個々のテーマにもとづき、科目担当者との意見交換や、クラスでの口頭発表＆ディスカッションをへて、レポート作成と修正を繰り返しつつ、ゼミ論文を完成する。

授業方法

I: 講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

II: 講義や個人発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。各自、小山とアポイントメント（授業外）をとって意見交換し、ゼミ論文を書き進める一方で、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

小山 薫 2/2

到達目標

- I: ・イギリスの異界伝承に関する知識（ケルト文化、妖精伝承、人魚伝承など）の修得
- ・イギリスのキリスト教文化に関する知識（天使悪魔、悪魔伝承、聖人伝承、魔女伝承など）の修得
 - ・プレゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成）の向上
 - ・ゼミ論用テキストとテーマ、主要参考資料の決定に至る、着実な準備
- II: ・各自のテキストとテーマに基づいて、「序」→「概略」→「ボディ」→「結論」に至る、効果的なアウトラインを作り、クラスでの個人発表や、指導教員（小山）との意見交換を経て、補筆や修正を加えつつ、少しずつ書き進めて、ゼミ論文を完成
- ・参考資料の取り扱いや注記方法に関する、基本ルールの修得
 - ・自分の考えを自分のことばで、効果的に文字で伝える方法を修得
 - ・年明けの卒業研究発表会での、プレゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成）の一層の向上
- I・II共通:
- ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している
 - ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識をもっている

授業の概要

映像作品だけでなく、文学、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究することにより、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。

到達目標

- * アメリカ文化全般にわたる知識を深める。
- * 固定観念にとらわれない柔軟な観点を得る
- * 自ら関心をもつ項目を定めて、意欲的に研究する
- * 英米文学基礎ゼミナールで習得したスキルをベースとして発表をし論文を仕上げる

授業方法

講読、発表が中心となるが、AV教材を利用した講義やディスカッションも行う。

T.L. Medlock

Text and Performance

授業の概要

The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and rehearsing literature written for performance. We will read a play or excerpts from a play and see how dramatic theme and tension are developed, and then rehearse the play for a partial or full performance at the end of the year, depending on numbers in the class. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. The choice of text or texts will depend on the number of students enrolled. Plays performed in the past have included *The Importance of Being Earnest* by Oscar Wilde, *Pygmalion* by George Bernard Shaw and *Blithe Spirit* by Noel Coward.

到達目標

1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.
3. Increase understanding of British society and culture.

授業方法

Students are expected to read excerpts of texts in both Japanese and English in advance and to summarise the development of the story and its characters. In class students will read the play (or excerpts) and discuss the development of characterization and theme. There will also be regular practice in developing vocal skills in English, such as intonation, articulacy and projection.

福島 祥一郎

19世紀アメリカ文学・文化と現代アメリカ

授業の概要

私の専門は19世紀中頃のアメリカ文学、特にポーやホーソンを中心としたアメリカン・ルネサンス期の文学です。この時期のアメリカは、独立後の混乱期を経て、ようやく独自の文化を形成しはじめた時期でありながら、その背後で様々な矛盾が生れていた時代でもあります。ただし、4年次ゼミではアメリカン・ルネサンス期の文学・文化を基本的な対象としつつ、より広く、自分の関心のあるアメリカ文学・文化について研究領域を広げることが可能です。春学期は7月のポスター・セッションに向けて、秋学期は卒業研究の完成に向けて個別の発表が中心となりますが、各自の研究に有益と思われることを数回に分けて講義・ディスカッションします。テーマとしては、都市社会、女性表象、人種と差別、アメリカ拡張主義、19世紀文学の現代における受容・アダプテーションなど。現代（アメリカ）の問題がいかに19世紀の文学・文化と関係しているかを理解し、より重層的な研究ができるような道筋を作ることが狙いです。皆さんが抱えている問題意識を大切にしつつ、そこから発展的にアメリカ文学・文化を研究し、混迷の現代を生きるうえでの新たな視点を獲得してもらえればと思っています。

到達目標

物語の背後にある歴史的・社会的コンテクストを読む力をさらに養い、自分の問いについて、論理的・客観的に研究を進め、卒業研究の完成を目指します。

授業方法

発表形式（個人発表とディスカッション）を主としますが、テーマについての背景知識、時代状況について、必要に応じて講義、必須となる文献の紹介・精読も行う予定です。

辻 英子

英詩研究①

英詩研究②

授業の概要

①このクラスでは英詩の研究を行う。英詩の芸術性について書かれた英文テキストを読み、詩の形式と内容の関わりについての理解を深めた上で、エリザベス朝から現代までの多様な詩を取り上げ、分析、朗読をする。

②このクラスでは英詩の研究を行う。Senior Seminar Iに引き続き、英詩の芸術性について書かれた英文テキストを読むと同時に、各自で研究テーマを決め、卒業論文を作成する。1月の卒業研究発表会では論文の内容を口頭発表する。

到達目標

- ・英詩の研究を通して、英文学の理解を深め、英語の音声表現力の向上をはかる。
- ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
- ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。

授業方法

①毎回の授業で英文テキストを数ページずつ読み進む。テキストの内容についてのディスカッションや詩の朗読練習も行う。学期末にはポスターセッションにおいて、各自で選んだ詩について口頭発表（詩の朗読を含む）をし、期末レポートを執筆する。

②毎回英文テキストの精読に加え、各自が卒業研究で扱う詩について口頭発表をすると同時にゼミ論文執筆を進める。1月には卒業研究発表会において口頭発表を行い、ゼミ論文集を作成する。

風間 末起子

『嵐が丘』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要

- ・この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』（1847）を使用することによって、19世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリ・ブロンテの世界を楽しみたい。
- ・春学期は、(1)ハワースのエミリ・ブロンテの生涯、(2)映画化された『嵐が丘』と原作との比較、(3)『嵐が丘』と食器、(4)インテリア小説としての『嵐が丘』、の4つのテーマのもとで学習していく。
- ・秋学期は、春学期の続きとして、(5)キャサリンとヒースクリフの愛（の謎）、(6)『嵐が丘』と幽霊 / キャサリンの死生観（キリスト教との比較）、(7)シンボルとイメージ、(8)ゴシック小説として読む『嵐が丘』 / Gothicという概念、の4つのテーマのもとで学習していく。

到達目標

- ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
- ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。

授業方法

関連の作品・研究書・文献を使って、精読と発表形式（グループごと）で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

授業の概要

This seminar discusses what learning or teaching English as a global lingua franca (EGLF) means and researches this issue in the Japanese context. At the same time, we examine the impact of learners' characteristics such as motivation, culture, aptitude, personality, and so on. This seminar is called “i-Seminar,” which stands for internet-seminar or I (me)-seminar. Accordingly, the internet (use of computers, smartphones, LINE, Facetime, Instagram, etc.) is encouraged to be used inside or beyond the classroom. This seminar will be categorized in the field of Applied Linguistics (the study of teaching/learning/using a second/foreign language) studies.

到達目標

Goals of the spring semester are three-fold: (1) to get to know each other; (2) to familiarize themselves with reading English written articles and write critical summaries about them; and (3) to understand the concept of EGLF. At the end of the spring semester, participants are expected to know what they are interested in, that is, their Research Questions (RQs) for the thesis. At the same time, participants are expected to acquire solid English proficiency, logical thinking, and beautiful friendship, which will undoubtedly be their assets in their future life and career.

Goals of the autumn semester are three-fold: (1) to actually conduct their own research (data collection and their analysis); (2) to establish supportive surroundings; and (3) to write a high quality graduation thesis. At the end of the autumn semester, participants are expected to find ways of collecting/processing/synthesizing data, know the answers to their Research Questions and to write a thesis in English. At the same time, participants are expected to acquire solid English ability, logical thinking, and beautiful friendship, which will undoubtedly be their assets in their future career and life.

授業方法

Most of the time is allocated to reading relevant journal articles (e.g., ELT Journal) regarding EGLF and Second Language Acquisition so that participants have a solid theoretical foundation in this area. One journal article is assigned for each session, which implies that participants read ten articles in spring. In the process of reading, participants are expected to find their own RQs for their graduation thesis, which will be presented at the 18th Poster Session of English Department (July, 2020), where each participant presents their RQs in English and obtain feedback from the audience (other students, teachers, and the general public). This seminar is conducted bilingually (mainly in English).

Most of the time is allocated to discussions on how to write a good thesis, workshops on it, and participants' presentations so that all the participants could submit their theses by due time (December 17, 2021). Participants have several opportunities to present the chapters of their thesis. To facilitate the process of writing the thesis, we will take several approaches (e.g., utilizing study groups or the internet). The thesis is to be written following the APA 6th edition. The thesis is to be presented at the 18th Bachelor Thesis Presentations of the English Department (January 2021). Statistical software (SPSS 26) is also used. This seminar is conducted bilingually (mainly in English).

授業の概要

このコースでは、Junior Seminar I & II をさらに発展させ、言語および言語にまつわる文化についてゼミ生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、さまざまな分野へと興味が広がることを期待する。

到達目標

個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。

- ・与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つけることができるようになる
- ・英語と日本語のそれぞれの言語構造の特徴について理解できるようになる
- ・言語に関する社会問題や異文化に対する強い関心を持つことができるようになる
- ・自らの意見や考えを分かりやすく表現できる力を身につける
- ・ゼミを通して、自らの置かれた立場での役割・責任、リーダーシップを発揮しようとする意欲を高めることができるようになる
- ・自らが定めた目標に向かい「計画的×継続的×積極的」に物事を進めていくことができるようになる

授業方法

このコースは、Senior Seminar II において卒業論文を完成させるための基盤となるところの課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のリサーチ・トピックにおける知識や理解を確認する。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿（夏期休暇中）を行う。

授業の概要

I: This course will expose students to topics of intercultural communication such as diversity, education, gender and other related genres. This course also aims to train students to write academic research papers and make formal academic presentations.

II: This course will expose students to topics on intercultural communication and competency, as well as to train students to write academic research papers and make formal academic presentations. A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

到達目標

I: A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

II:

- (1) Students will explore and examine topics on intercultural communication and social diversity
- (2) Students will practice analytical skills and critical thinking
- (3) Students will learn about the different societies around them from various perspectives

授業方法

The class will be conducted through group discussion and project-learning. The students will be exposed to different types of information through media (film, news, short film clips) and assigned readings from books and academic journals.

授業テーマ

英国と日本（比較と分析）

2021年度から新しく英語英文学科に
仲間入りしてくださる先生です！

秦 由美子

授業の概要

この授業では、英国（特にイングランドとウェールズ）の大学を担ってきた様々な文化人の述べる意見を通して、日本の大学と比較しながら改めて英国についての理解を深めると共に、日本社会に生きる自己を見つめなおす機会になることを希望する。

到達目標

- 1) 英国の文化や社会について全体像を把握する
- 2) 英国人と日本人の思想、考え方についての比較検討を試みる
- 3) 卒業論文に向けて、パワーポイントで自らの意見を纏め、

発表する練習の実施

授業方法

毎回の授業でテキストを読みながら、多様な英国人の考え方や生き方についてディスカッションをする。また、全員にパワーポイントでの発表を実施してもらう。



Shakespeare Production III



辻 英子 T.L. Medlock

科目名

Shakespeare Production Ⅲ

授業テーマ

Twelfth Night (『十二夜』) 上演

授業の概要

このクラスでは3年次の Shakespeare Production I, II で学んだシェイクスピアの戯曲 Twelfth Night (『十二夜』) の上演を通して、原作のより深い理解を目指す。実際の舞台上演を行うに当たっては、参加者一人一人の積極的な取り組み、仲間との連帯が何よりも大切である。週2回の授業時間外の活動が多く（特に夏期休暇後半から秋学期の上演までの期間）、体力と気力が大いに必要とされるので、覚悟の上、臨んでほしい。

到達目標

1. 舞台上演を通して、シェイクスピアの戯曲をより深く理解する。
2. 舞台制作にかかわる共同作業を通して、リーダーシップや仲間を思いやる力を養う。

授業方法

全体でのミーティングとパートごとの作業の2本立てで進めていく。担当教員はあくまでアドバイザー的役割であり、参加学生が主体的に取り組んでいく。特に夏期休暇後半より秋学期の上演本番まで、授業時間外の長時間の活動が必須となる。